

# 令和6年度 名古屋市立若葉中学校 努力点について

## 1 本年度の努力点

**伝えよう 深めよう**  
～自分で目標を調整し、自分なりの挑戦をする～

## 2 ねらい

令和3年1月中央教育審議会答申で、「個別最適な学び」は「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されており、生徒が自己調整しながら学習を進められるよう指導することの重要性が指摘されている。また、答申教育課程部会の審議のまとめには、探究的な学習や体験活動などを通じ、子ども同士、あるいは地域の方々をはじめ「多様な他者と協働」しながら、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要だと記されている。

令和5年9月に示された名古屋市の学びの基本的な考え「ナゴヤ学びのコンパス」には、「全ての子どもが自分らしく、幸せに生きていくために『子ども中心の学び』を幼児期から青年期まで一貫して大切にす。」と記されている。そこで若葉中学区の幼稚園、小学校、中学校は、共通テーマ「夢に向かって自分らしく学ぶ」を定めた。学校は「子どもの夢」の支援をするために、「子どもが有能な学び手」であることを理解し、子どもの学びに伴走できるように取り組んでいく。

昨年度末の学校関係者評価委員会では、努力点の手立て「個別最適な学びと協働的な学び」について、「一人一人の学びの進捗度に合わせた支援が行われている。」「ドリームマップや職場体験学習は、子どもの社会性を養うことができる。」と肯定的な意見を頂いた。「個別最適な学び」は、自己理解を深めて他者に明確に伝える力や自己学習能力、問題解決学習能力などの個人的技能を学ぶ。「協働的な学び」は、自分の考えやアイデアを他者に伝える力や異なる視点やアイデアを理解して、協働で問題を解決する力などの社会的技能を学ぶ。これら異なる二つの学びを組み合わせ、生徒の「伝える力、深める力」の充実を図る。また、生徒の目標調整や自分なりの挑戦を大人が支援し、生徒が安全に失敗や成功を経験できる環境を提供することで、生徒の柔軟性や忍耐力、挑戦に対する主体的な行動力を養っていく。

## 3 具体的な手立て

### (1) 「指導の個別化」

支援の必要な生徒に重点的な指導をしたり、一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じて、指導方法、教材や学習時間を柔軟に設定したりすることで、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度を育成できるようにする。

### (2) 「学習の個性化」

生徒たちの学習基盤、学ぶスピード、興味や関心、将来の目標は一人一人異なっているため、一律の教育方法では生徒自らの潜む能力を引き出すことはできない。そこで、一人一人の多様な個性や能力に合わせた学びを提供することで、生徒自身が自らの学習を最適となるように調整する。

(3) 「ゆるやかな協働を意識した、多様な他者との学び合い」

生徒一人一人が自分のペースを大事にしながら、共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動を通して学びを構築できるようにする。

4 学びの提供と育てたい生徒像

(1) 「指導の個別化」

- 定期的に生徒の理解度や能力を把握して、個々の生徒に合った学習支援を提供することで、生徒は自らの学びを確実に習得できる。
- 生徒が個々に目標を設定し、その目標に向かって個別に指導を行う。生徒は自らの目標に向かって進むことで、学びの意欲を高められる。

(2) 「学習の個性化」

- 教師が生徒たちの興味や関心に合わせて、生徒が自由に教材を選択できるような環境をつくることで、生徒は異なる目標に向けて学習を深め、広げることができる。また、自らどのような方向性で学習を進めていけばよいかを考えることができる。
- 教師が一人一人の生徒の学力や能力に合わせて、カリキュラムをカスタマイズすることで、生徒は自分自身に適したペースで学んだり、学びに集中したりすることができる。

(3) 「ゆるやかな協働を意識した、多様な他者との学び合い」

- 生徒は自分の視野を広げたり多様な視点を取り入れたりして、より豊かな学習経験を得ることができる。
- 生徒がより深い理解を得たり、自分の考え方を客観的に見直したりして、問題解決力やコミュニケーションスキルを高めることができる。
- 生徒が互いにアイデアを出し合い、新たなアイデアや解決策を生み出すことができる。